

経営比較分析表（令和6年度決算）

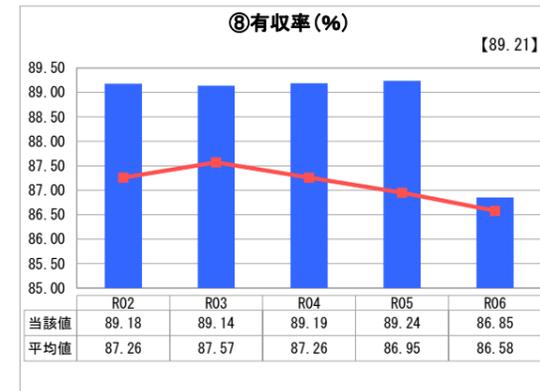
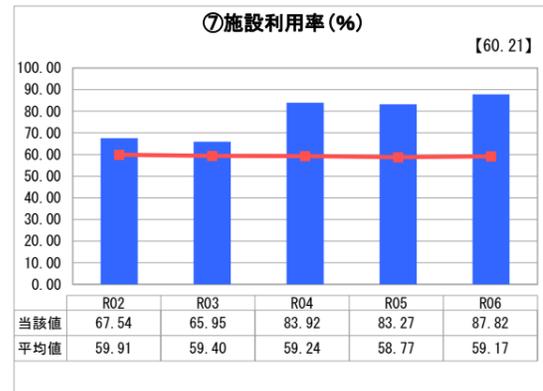
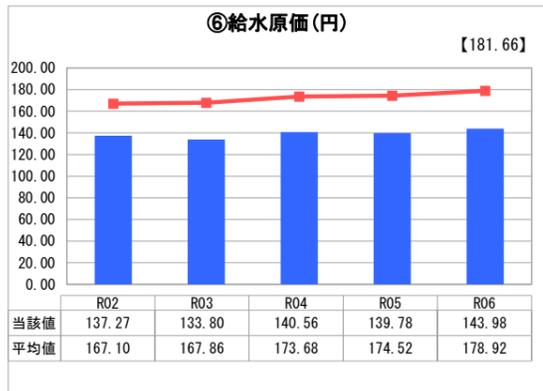
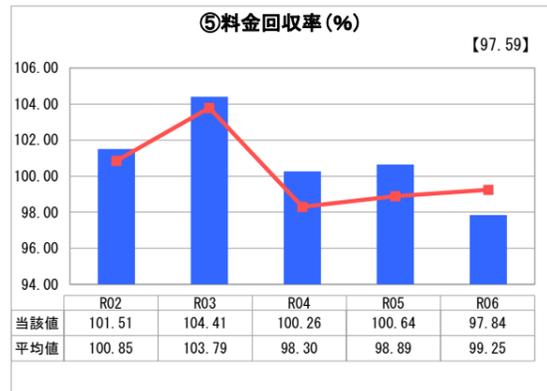
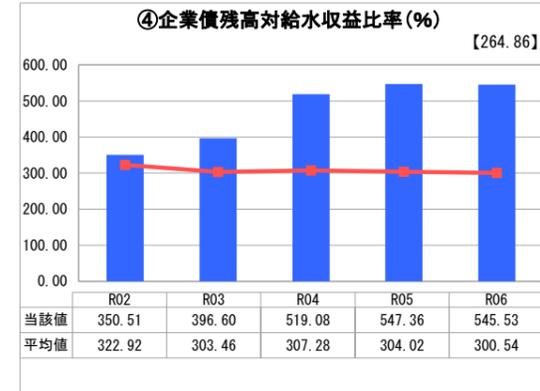
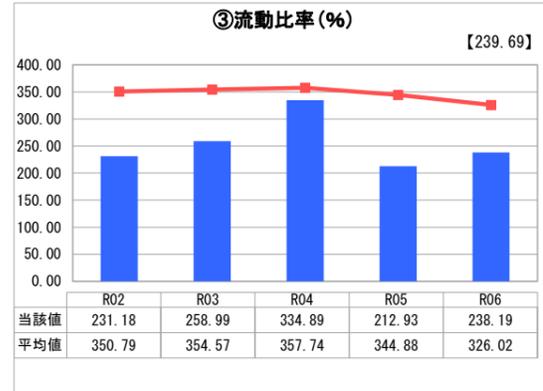
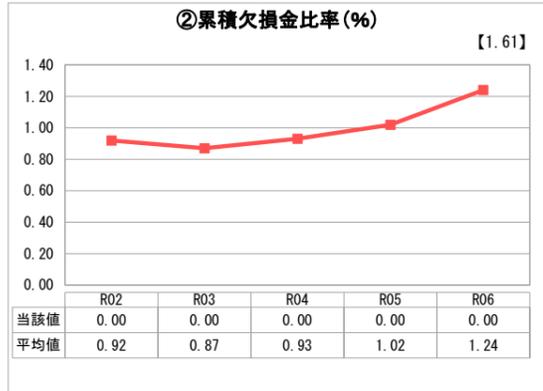
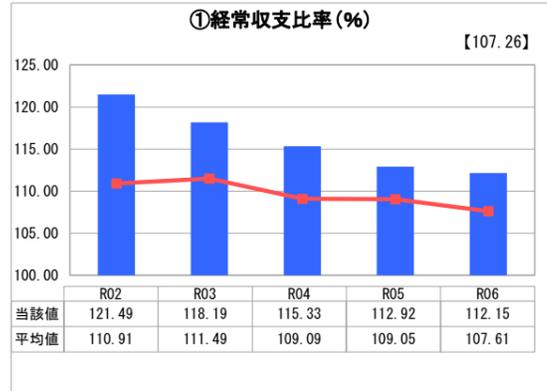
岡山県 総社市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	66.64	95.64	2,750	

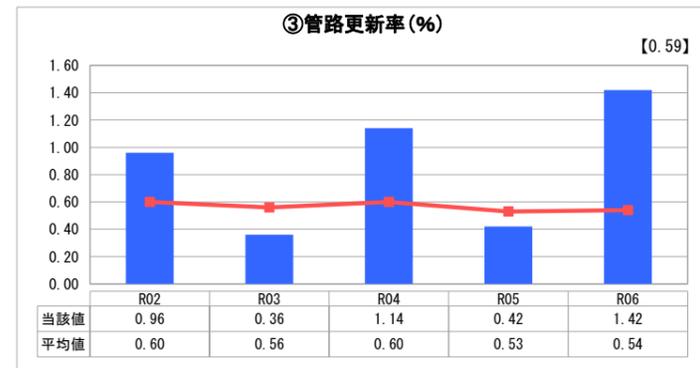
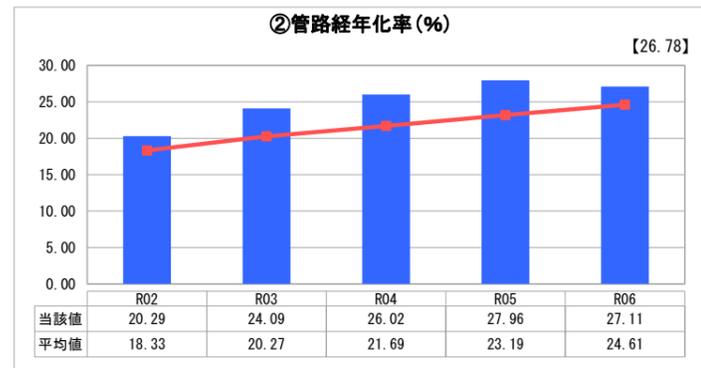
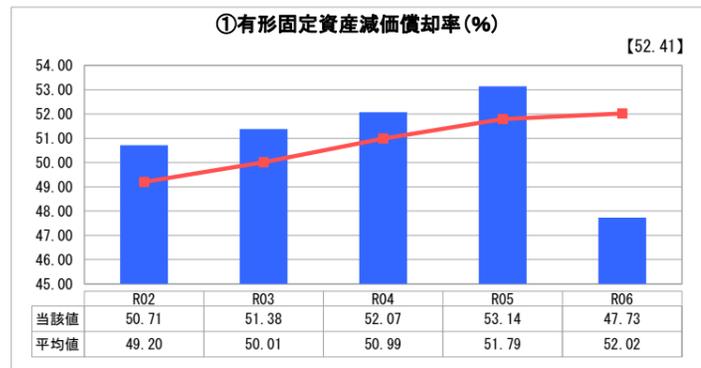
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
69,625	211.90	328.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
66,421	113.85	583.41

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成29年度から上水道と簡易水道を統合し経営の健全化に努めています。
 「④企業債残高対給水収益比率」は、平均値を上回っているため、引き続き企業債残高の抑制に努めていく必要があります。
 「⑤料金回収率」は令和6年度において、全国平均を上回っていますが、類似団体の平均値を下回っており、経営の健全性や効率性を確保する必要があります。
 「⑥給水原価」については、全国平均及び類似団体の平均値より低くなっており、適切な数値になっていると考えられます。
 「⑦施設利用率」については、全国平均及び類似団体の平均値を上回っており、適切な施設規模であると考えられます。
 「⑧有収率」は、令和6年度において低下しており、有収率の改善に向け今後も漏水対策等を継続していく必要があります。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、令和6年度において小寺低区配水池や東部第5水源池といった大型の固定資産が供用開始したため、大きく減少しました。今後も計画的に施設の更新等に取り組んでいく必要があります。
 「②管路経年化率」が年々高くなっているため、より積極的な老朽管路更新に取り組んでいく必要があります。
 また、管路以外の老朽化も進んでいることから、管路以外の有形固定資産の更新についても計画的に取り組んでいく必要があります。

全体総括

今後、必要な更新投資を行うと、徐々に経営状況が悪化していくと予測されます。そのため、水道施設の統廃合を行い、更新投資の抑制に努めていく必要があります。
 また、従来になかった耐震性能の確保を求められるなど、投資のあり方も変化していることから水道料金の見直しを行います。